# 水田農業における奥能登版２年３作モデルの確立

奥能登農林総合事務所

本県では、水田を有効活用し農家の所得向上を図るため、水稲、大麦、大豆を輪作する「２年３作」を推進しています。

しかし、管内では加賀地域に比べ大麦の収穫時期が遅く（６月上旬)、大豆の播種時期（６月上中旬）と重なることから、作業が競合し「２年３作」の導入が進まない状況となっていました。

このため、当事務所では、大麦の収穫作業との作業競合を回避でき、かつ水田でも栽培が可能な作物として、７月中旬に播種する「能登大納言小豆」に着目し、水稲、大麦、小豆を組み合わせた「奥能登版２年３作モデル」を推進することにしました。

このモデルを管内の農家に普及させるにあたり、実際に現地で実証を行い、作業面での効果や収量、品質を確認するとともに、農家の所得向上につながるかどうかを検証しました。当実証では、令和３年秋に大麦を播種し、令和４年には大麦の後作に小豆を導入、令和５年は水稲を栽培しました。

この結果、小豆は大麦との作業競合を回避できるだけでなく、大麦の後作として排水性が改善されたほ場で栽培されたことから、管内の平均を上回る収量を確保でき、小豆の後作の水稲は慣行（水稲単作）と同程度の収量・品質が得られ、「奥能登版２年３作モデル」が農家の所得向上につながることが確認できました。

また、「能登大納言小豆」は、県のブランド農林水産物「百万石の極み」に認定されるなど、奥能登地域を代表する品目としてブランド化が進められており、今回の実証結果を基に大規模法人等を中心に普及を図っていくことで生産拡大を図り、一層のブランド力の強化につなげていきます。

図１．実証ほの大麦の様子
(R4.3 月撮影)

図２．実証ほの能登大納言小豆の様子
(R4.10 月撮影)

問い合わせ先：農業振興部（０７６８－２６－２３２３）